

本時の  
ねらい

一方的にネットでの将棋の試合を中断させてしまう僕の不誠実さや、見えない相手とどう向き合うかで自分が試される気がするという敏和の誠実さについて、自分と重ねて考えることなどを通して、自分にある弱さをごまかさずにしっかり向き合い誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする道徳的実践意欲を育てる。

### 学習活動



#### つかむ

1. 将棋の3つの礼について知る。
2. 学習課題を知る。



#### 考える・話し合う

3. 教材「ネット将棋」を読んで、自分と関わらせて考え、話し合う。  
○「僕」と敏和の違いを考える。

◎敏和にあって「僕」にたりなかったものはなんだろう。

4. 自分を見つめ振り返る。  
○自分にも敏和のような心があるだろうか。



#### 見つめる・振り返る

5. 本時の学習を振り返る。
6. 教師の説話を聞く。

### 予想される児童の意識

「お願いします。」  
「負けました。」  
「ありがとうございました。」

学習課題 誠実に行動するためにはどのようなことが大切だろうか。

【僕】

- ・負けそうになると時間稼ぎをする。
- ・弱い相手とだけ対戦する。
- ・負けたくない。

【敏和】

- ・「負けました」と言える。
- ・負けても「ありがとうございました」と言える。
- ・対戦を楽しんでいる。

- ・負けを認めることができる心。
- ・負けを認めることが自分の上達につながると考えている。
- ・自分に足りない部分を見つめ、振り返ることができ、相手の意見を素直に聞くことができる。
- ・将棋が強くなりたいと思う気持ち。
- ・勝ち負けではなく、勝負を通して勉強をしている。
- ・自分一人では強くなれないことを理解している。
- ・自分自身に勝つことも大切。
- ・自分の行動に責任を持つ誠実さ。

- ・勝つことだけを考えてずるいことをしそうになったり、弱い自分に負けそうになったりする。負けた後どうするかを考えられてないときがあった。
- ・敏和みたいに誠実でいるのは難しい。上達するには勝ちも負けも素直に受け止めることが大切だと思うけれど負けたことを受け止められず、人のせいにしたり言い訳をしたりする弱い自分がある。



- ・負けたことを受け止められず、人のせいにしたり言い訳をしたりする弱い自分があるけれど、そんな弱い自分としっかり向き合うことができるようになりたい。
- ・言い訳をしたり、人のせいにしたりする自分にある弱さと向き合い、いつも誠実でいられるように努力したい。

**評価の視点** ・敏和の誠実な行動の理由やその時の心情を自分と重ねて様々な視点から捉え考えようとしているか。  
・敏和の行動の理由を自分に置き換えて考え、自らの生活や考えを見直しているか。

## 教師の支援 □評価

- ・将棋というゲームの特徴を簡単にとらえられるようにする。
- ・教材を範読する。
- ・感じたことを聞きながら、**登場人物や物語の概要**を押さえる。



- ・将棋に対する姿勢の違いを考える。
- ・僕の将棋に対する姿勢については、その理由についても考えられるようにする。

- ・タブレットPCを用いてムーブノートのスタンプ機能で、僕にどの程度共感できるかを視覚化できるように工夫する。
- ・なぜ、そのように考えたか理由を話し合えるようにする。
- ・タブレット型PCを用いて、どちらに共感できるかアンケートを取り、集計結果を電子黒板に表示する。

- ・補助発問  
なぜ負けを認めることができるのだろう。  
強くなりたいのは「僕」も同じでは？  
強くなればいいのか？  
僕も努力をしているのでは？



グループ交流



コの字型全体交流

- 敏和の誠実な行動の理由やその時の心情を自分と重ねてさまざまな視点から捉え考えようとしている。
- 敏和の行動の理由を自分に置き換えて考え、自らの生活や考えを見直している。



- ・評価の視点にそった感想を意図的指名により発表させる。

## 授業改善のヒント

### 教材の内容を理解できるようにする工夫



教材文の内容を理解できるようにするための工夫として、事前に教材文を読ませたり、教師が範読する前に登場人物や人物の関係などを伝えたりするとよい。教師の範読後に、あらすじを整理し、教材内容の理解を十分した上で、話し合いにつながる事が大切である。

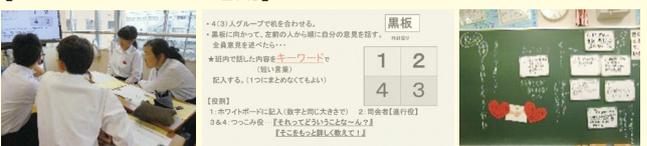
### 話し合いを深める工夫

#### 【ムーブノートのスタンプ機能活用】

ICTを効果的に活用し、考えをタブレットPCに書いてオフリンクで送り、電子黒板に生徒の意見を映し、意図的に指名したり、生徒同士の意見をつなげたりしながら道徳的価値についてより深く掘り下げられるようにすると効果的である。生徒の意見に対して、「似たような考えは？」「もう少し詳しく話せる人はいるかな？」などの切り返しをすることで、一つ一つの考えをしっかりと深めていくことができるようにする。



#### 【ホワイトボードの活用】



4(3)人グループで紙を合わせる。  
黒板に向かって、左側の人から順に自分の意見を話す。 (時計回り)  
全員意見を述べたら...  
※組内で話し合い内容を「ムーブノート」(時計回り)記入する。(1つにまとめなくてもよい)

1	2
4	3

【発問】  
1. ホワイトボードに記入(数字と同じ大きさで) 2. 発言者(進行役)  
3&4. つっこみ発問 『あなたの意見はどのようだった？』  
『ここももう少し詳しく教えて！』



グループの話し合いで、ホワイトボードを活用して交流することも効果的である。話し合い方を決めておき、友だちの意見に感想や意見を言うなど、書いたことを発表するだけの話し合いにならないように留意する。また、収束する話し合いではないため、ホワイトボードには、意見をまとめて書かず、端的にキーワードで書く方がよい。

### 深い 学びのポイント

深い学びにつなぐ授業改善をするために、本時で目指す生徒のつばやきとして、学んでほしいことの具体的な姿を考えていくことが大切です。

《めざす生徒のつばやき例》  
「言い訳をしたり、人のせいにしたりする自分にある弱さと向き合い、いつも誠実でいられるように努力したい。」

### めざす生徒のイメージ化



### 深い 学びのポイント

本時の学習課題を振り返り、自分のこれまでの生活と重ねて考えられるようにすることで、考えの深まりを自覚し、自分の生き方につなげられるようにしたい。振り返りの視点を示し焦点化した学習のまとめにつなぐ。

- ◆色々な思いを比較して考えよう
  - 1 あらゆる見方で「なぜ・どうして」を考えよう
  - 2 自分と異なる立場・感じ方・考え方を大事にしよう
  - 3 いろいろな立場・感じ方・考え方を比較しながら、自分はどうあるべきか、どうすべきかを考えよう
- ◆自分に結びつけて考えよう
  - 4 (教材との出会い) 今の自分はと思う
  - 5 自分が登場人物だったらどう考えるだろう、どうするだろう
  - 6 これまでの自分を見つめよう
  - 7 これからの自分について考えよう

ワークシートに記入したり、掲示したりして意識化につなぐ。

### 振り返りの工夫

